

令和7年3月31日

次年度に向けた改善方策

赤松学舎 世田谷区立松沢中学校
校長 大塚 洋一

令和6年度学校関係者評価委員会からの報告では、生徒の教員や学校に対する評価が高いことが記されている。多くの項目(学習指導、生徒指導、学校行事、教員との関係性)で高い評価を得ていることから、引き続き、「生徒の自主性を尊重し、丁寧にひとつひとつに取り組んでいく」よう学校全体で強く意識していくことをまずは上げさせていただきたい。

その上で、改善しなければならない内容、検討しなければならない内容について「次年度に向けた改善方策」として設定した。

1 互いを尊重し、認め合う「心」をはぐくむ教育の推進

- (1) 生徒間で注意できる雰囲気の醸成に努める。委員会をはじめとするリーダーの育成・指導と教員によるフォローをしていく。
- (2) 道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む。
- (3) 日々の学校生活や行事を通して、生徒の自尊感情や認め合う力、よりよい人間関係をつくり上げる力を育てる。

2 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

- (1) 「知識を教える」から「主体的に課題を解決する探究的な学び」となる授業を推進する。
- (2) タブレットに限定されずICT機器を活用し、「より学習効果が期待される授業」「分かりやすい授業」となるよう教材研究・準備を進める。
- (3) ICT機器の活用を含め、言語活動を基盤とした「自分の考えを発信する学び」を積極的に取り入れる。
- (4) キャリア・未来デザイン教育の一環として、3年間の系統的・計画的なキャリア教育を推進する。
生徒にとって進路・進学に限定されない「未来」「生き方」を考えさせる。

3 地域連携の充実と適切な情報発信の改善

- (1) 情報発信の活用方法、運用方法について、検討・整理し、必要な情報をタイムリーに発信していくよう再構築する。
- (2) 教育資源を活用した「職場体験」、地域で活動する「ボランティア活動」など体験活動の充実や参加促進の広報に努め、地域と連携した学校づくりを推進する